

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和4年度病害虫発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

令和4年度病害虫発生予察注意報第3号

- 1 作物名 小ギク（彼岸出荷用）
- 2 病害虫名 黒斑・褐斑病
- 3 発生地域 沖縄本島（中南部）

4 注意報発令の根拠

沖縄本島における12月のほ場調査の結果、本病害の発病葉率は19.6%（平年：0.6%）、発生ほ場率100%（平年：17.2%）となり、平年と比べ多発生となっている（図1）。また、過去2年の発生推移と比較しても高い発病葉率を示している（図2）。地域別の発病葉率は中部が7.9%、南部が29.0%で特に南部地域で多発生となっている。

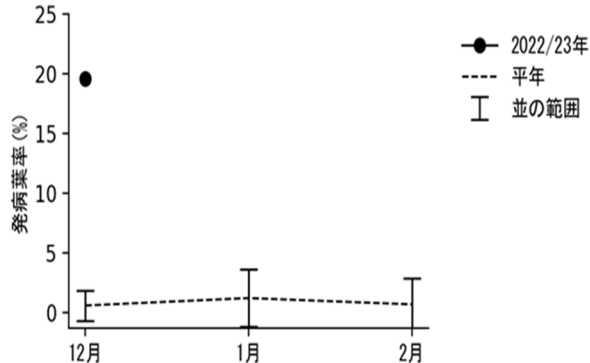


図1 黒斑・褐斑病の発病葉率の推移

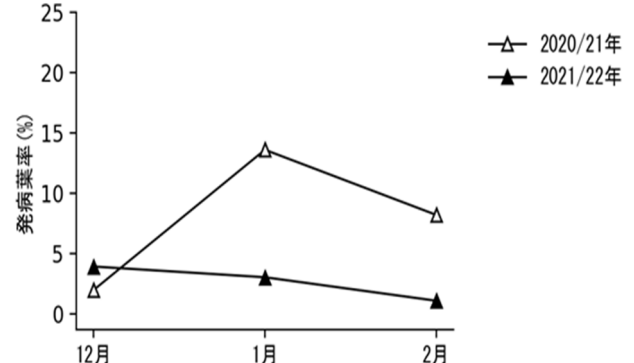


図2 黒斑・褐斑病の過去2年の発生推移

5 発生生態および被害

- (1) 褐斑病の病原菌は *Septoria obesa* H.& P.Sydow で発病適温は20～28℃で発生が多い。病徴は初め不規則な褐色少斑点を生じ、のちに不正形、楕円形、円形の黄褐色ないし黒褐色病斑となる。黒斑病の病原菌は *Septoria chrysanthemella* Saccardo で発病適温は24～28℃で発生が多い。病徴は褐斑病にきわめて類似しており、外観的な区別は困難である（図3）。
- (2) 伝染源は感染親株ならびに摘心後の株で、被害葉上に形成される柄子殻から風雨により柄胞子が飛散し、周囲に伝播する。
- (3) 多発時では大型病斑が増加し、下葉から枯れ上がり、上位葉へと進展する。ひどい場合には半数以上の葉が枯死する。
- (4) 高温多湿条件で多発する。また、肥料切れや窒素過多により発生が助長される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発病葉は速やかに除去し処分する。
- (2) 施肥管理を適正に行う。
- (3) ほ場の排水・通風を良くする。
- (4) 水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。
- (5) 発生が認められた場合は薬剤散布による防除を徹底する。
- (6) 連作ほ場では、摘心後から予防散布を行う。



図3 多発時の様子